

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年8月分）

【製造業】

○製造業は、6月の鉱工業生産指数が前月比1.5%と上昇。ヒアリングでは、受注は回復傾向にあるとの声があったものの、東南アジアにおける新型コロナウイルスの感染拡大による大手自動車メーカーの減産発表による影響が懸念されるとの声が聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、6月の鉱工業生産指数が、主な地場産業の全てで上昇した。ヒアリングでは、お土産物やホテル向けなどの売上は厳しい状況が続くものの、EC販売への進出やテイクアウト需要などで売上を向上させているとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、7-9月期の設備投資実施DI見通しは前期比▲0.5ポイント低下し、設備投資意欲DI見通しは同5.8ポイント上昇している。ヒアリングでは、アフターコロナやDXを推進するための前向きな設備投資の動きが見られた。

【個人消費】

○個人消費は、7月の販売額は、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型量販店、百貨店・スーパーの全てで増加した。ヒアリングでは、感染症対策を強化し巣ごもり需要に対応した品揃えとするなど、新型コロナウイルスが感染拡大するなかでも需要を取り込もうとする動きがあった。

【観光】

○観光は、6月下旬にまん延防止等重点措置が解除されたため、7月の客数は観光地、宿泊施設ともに6月と比較すると増加したが、コロナの影響を受ける前の一昨年と比較すると下回っている。宿泊施設からのヒアリングでは、新型コロナウイルス感染症の終息がまだまだ見込めず、依然として厳しい状況が続いているとの声があった。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、7月の制度融資実績は、件数、金額ともに3ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からのヒアリングでは、実質無利子・無担保融資により手元資金がまだあるため、借入の申し込みは例年よりも落ち着いているとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、7月の有効求人倍率が1.44倍と3ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、県の労働力シェアリング事業を活用した出向者の受け入れにより、人手を確保する動きが見られたものの、業種によっては厳しい雇用状況が聞かれた。

【景気動向】

6月の景気動向指数（一致指数）は前月比で0.7ポイント上昇し、7月の中小企業の景況感は同比で1ポイント上昇した。